



フードバンク関西ニュース

2004年 4月 10日 第2号

2004年4月10日発行
発行者 フードバンク関西
事務局
尼崎市南清水37-14
06-6496-4077

「フードバンク」って、何？

「なんとかバンク」と聞くと、思い出すのは「腎臓バンク」、「脊髄バンク」。命にかかわる大事な部分を、不治の病気で苦しんでいる人達にあげる仕組みの事。

考えてみれば、食べ物も、無かったら命に係わる大切な物。でも世の中、食べ物が余って処分に困っている所があると思えば、その日の食事満足にすることができない人達もいる。着る物が無くて、寝る場所に困っても、すぐにどうなるというわけではないが、食べ物が無いのは本当につらい。食べ物は命の糧、大切なのです。だから、大事にしたい。余ったからといって、すぐに処分しないでほしい。どこかで、食べ物が無くて困っている人がいるかも知れない。「フードバンク」は、この大切な食べ物を、余った所から預かり、足りなくて欲しい所に運ぶ仕事をするボランティア活動です。フードバンク関西は、この地域でその活動を2003年春から始めました。



どんな活動をしているの？

私達は、こんな風に活動しています。

現在、食品を提供してくださっている企業は次の5社です。

コストコ尼崎店 週6日
カルフル尼崎店 週1回
ネスレ・ジャパン 神戸市 約月一回
高嶋酒類食品(株) 神戸市 不定期
プライス・クラブ 神戸市 不定期

食品の受け取りは、日曜日を除く週6日、受け取り量は、一日平均150kg位です。ボランティアが自分の車で受け取りに行きます。時々、コストコ尼崎店から、パレット単位で缶ジュースやお菓子類などをいただく事もあります。そんな時はトラックで引き取りに行くこともあります。

食品のお届けはこんな風になっています。

月曜日 大阪市内の母子支援NPO
尼崎市の小規模作業所
火曜日 尼崎市の知的障害者作業所と
共同生活ホームを運営する2法人
水曜日 神戸市内の児童養護施設5ヶ所
木曜日 大阪市のホームレス支援NPO
金曜日 大阪市のホームレス支援NPO
神戸市内の児童養護施設2ヶ所
土曜日 大阪市のホームレス支援の教会
基本的に食品を受け取った日に、即、配達をしています。この作業はボランティアが交代で当たります。喜んで受け取り、大切に活用して下さる方達の笑顔が私達の励みです。

フードバンク関西の最近の活動のようす

1月26日、法人化完了

昨年秋から準備を始めたNPO法人化の取り組みが、今年1月20日に兵庫県から特定非営利活動法人の認証をいただく事ができ、1月26日に法務局の法人登記完了をもって完了しました。その日をもって、私達は特定非営利活動法人フードバンク関西として、再スタートをきりました。これからは、NPO法人としての社会的な責任を自覚して、さらに活動を広げていきたいと願っています。これからもよろしくお願ひします。

尼崎市内の知的障害者作業所との協働のイベント開催

去る3月21日、カルフル尼崎店の1階モール場所をお借りして、フードバンク関西と知的障害者通所作業所施設である杭瀬福成園、清流園、あいあいの皆さんとの協働で、活動PRと作業所生産品の即売会を開催しました。これは、カルフル店長の地域との交流の場を提供したいというお申し出に、フードバンク関西がお世話役を引き受け、福成園に呼びかけて実現しました。当日は、家族連れでにぎわう店内、1階階段下ホールにテーブルを5個並べて、美味しそうなクッキーや手作り陶器、手漉き和紙で作られたカード、さおり織のバッグ類など並べてのお店となりました。午前11時から午後4時まででしたが、ゆっくり眺めて買い求めてくださるお客様も多く、成功の内に終了しました。作業所では生産品の販売機会が少なく、貴重な機会と喜んで下さいました。偶然ですが、会場に毎日新聞の記者が取材に来られ、翌日の朝刊の阪神版に写真入りで記事が掲載された事は、予期せぬ収穫でした。これをご縁に、カルフル尼崎店で、不定期にこのような催事を、出店料無料でさせていただく事ができる見通しです。次回はゴールデンウィーク中の5月2日、1階モールエスカレーター横のスペースをお借りして同様のイベントを開催します。ただいま参加作業所を募集中です。なお当日お時間がありましたら、是非このイベントに、お客さんとして参加して下さい。

2004年3月22日毎日新聞朝刊阪神版

自作の陶芸作品などを展示即売

尼崎の3施設

尼崎市内の三つの知的障害者通所更生施設が21日、同市次屋3の大手スパー「カルフル尼崎」で、自分たちで作ったクッキーや陶芸作品などを展示即売した。写真。

3施設は同市杭瀬本町3の「杭瀬福成園」と「あいあい」、同市西尾陽3の「清流園」。福祉施設やホームレスに食事を提供するにぎわい。

【堀江拓哉】



供しているNPO法人「フードバンク関西」(藤田治理理事長)が「福祉施設に無償で販売スペース」と施設側とカルフル側に声をかけ、実現した。

この日、同店では、買い物客らが、テーブルに並べられたクッキーや陶芸、さをり織などを見ては買い求めていた。渡辺幹夫店長(50)は「これからも地域と交流していきたい」と話していた。